

公立高校入試制度が変わります

調査書（内申点）が激減！

皆さんもご存じの通り、公立高校の入試に占める学校の成績＝調査書の割合が大きく変わります。

今までは学力検査が125点、調査書が130点で合計点のほぼ50%を占め、学校の成績が入試に大きく影響していました。

しかし今年度から一般枠の入試で、学力検査が600点、調査書が1年生40点・2年生40点・3年生120点の合計200点、自己表現が200点となり、各学年の成績が入試全体の合計点に占める割合は、1・2年生がそれぞれ4%、3年生が12%まで激減します。

明らかに実力重視の入試スタイルへと変わることが分かります。皆さん、この変化をどう思われますか？

私たちは大賛成です

今までの入試スタイルでは調査書が大きな割合を占めていたため、まずは学校の成績をきちんと確保することが必要でした。

「普段からきちんと勉強した証拠を残しておかないと高校にいけませんよ」というスタイルです。つまり高校進学を餌に1年生の頃からきちんと勉強させるというスタイルです。学習習慣をつけるという目的から考えるとそういう方法もありかなとは思いますが、いざ入試にその調査書を使うといろいろと矛盾が出てきます。

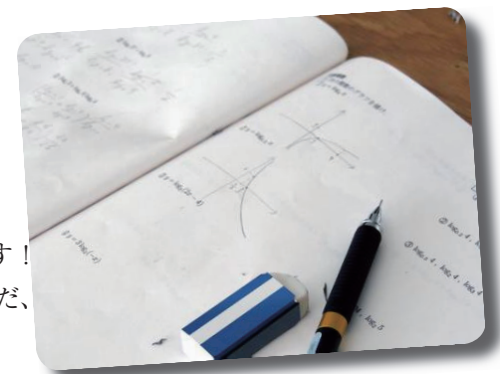
賛成理由その1

調査書は公平ではない

調査書のもとになる評価が地域や中学校によって大きく異なります。

まず、中学校で使っている教科書が自治体によって違います。同じ高校を受験するならその学習のもとになる教科書を同じものにするのが当然だとは思いませんか？

そして、調査書の点数のほとんどを占める学校のテストですが、学校によって時期も違えば回数も異なります。さらにテストそのものが違います！評価基準が違う調査書が入試全体の点数の50%を占めるのはおかしい話だ、とずっと思っていました。



賛成理由その2

子どもの成長速度の違い

言うまでもなく中学生の成長速度の違いは明らかです。特に中学生になったばかりの頃はかなり大きな差があります。そしてその差を抱えたまま定期テストに臨み、その点数が調査書の点数として固定されます。すべてがそうとは言えませんが、成長速度の差＝学力差となっている生徒たちがいることも事実で、早生な生徒有利の体制がずっと続いていたということです。

それが今回から、1・2年生の成績は入試全体のわずか4%ずつにとどまるため今までに比べるとその差がかなり小さくなります。

実力重視だからこそ学校の成績を大切に！

さて先ほども述べましたが、調査書の影響が小さくなったことで、学校の成績よりも実力が重視されるようになったことは間違いありません。

しかし、実力重視だから学校の成績をおろそかにしてもよいのではなく、むしろ逆で、実力重視だからこそ普段から学校の成績をしっかりと把握しておく必要性が増し、今まで以上にしっかりと学習習慣を身に付けなくてはいけなくなったのです！



確かに実力さえあれば「学校の成績＝調査書の点数の差」を逆転することが可能になりました。しかしその為には、“逆転しようとする生徒たち以上の学力を身につけておく必要がある！”という事実を忘れないで下さいね。昨年の教科書改訂で中学生の学習内容は増加しています。その上、広島県の入試問題は全国的に見ても平均点が極めて低く、非常に難しい問題が出題されます。

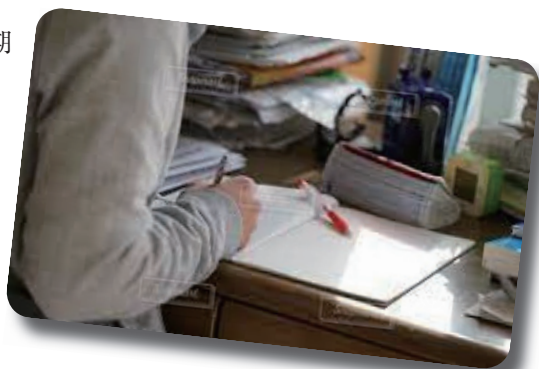
1年生の頃から学校の成績を気にかけていた生徒たちは小テストや定期テストの対策など、その都度勉強をしてきました。

たとえ入試対策を始めたときに1・2年生の内容を忘れていることがあっても、一度練習した内容です。短時間でできるようになります。しかし、3年生になってから頑張ればいいやと普段からの勉強をおろそかにしていた生徒たちは、その時点で一から勉強を始めることになります。そしてコツコツと勉強を続けていた生徒たちに追いつき追い越さなくてはならないのです。

3年生の学習を行いながら、より時間をかけて1・2年生の内容を復習し、さらに入試対策を行うには圧倒的に時間不足です。

できないことはないでしょう。人生がかかっているのだからやるしかないのです。

ただ、とてつもなくハードな道のりだということは誰の目にも明らかですね。



超短期決戦から長期決戦へ

つまり調査書の影響が小さくなったことで、“定期テストの結果＝高校進学のための成績”ではなく、“定期テストの結果＝現時点での達成度の把握”という、本来のあるべき姿に戻ったということです。そしてテスト結果をもとに自分の勉強方法を見直す時間を今まで以上にとることができます。テストの度にあれこれ試すことができ

るのです。そして、自分に合った学習スタイルを作ることが可能になりました。

数ヶ月おきに行われる定期テストで結果を残さなくてはいけないという、超短期決戦から中学3年間をかけてじっくりと力をつけていくことができる長期決戦へと変わった！

ということなのです。

これが最も大きな賛成の理由、その3です！



子どもたちの成長

頭の成長には個人差があります。しかも体の成長のように目で見て確認することが難しいものです。呑み込みが早くてすぐにできる早生な子もいれば、何度やってもできないと苦しんでいる子もいます。

親からすると、なんであの子にできてこの子にはできないのか？と、腹ただしい思いで余計にプレッシャーをかけてしまうこともあります。

しかし、頭も時間とともに確実に成長し、諦めずにやりつづけることで、できなかったことも少しずつできるようになります。時間が個人差を縮めてくれます。焦りは禁物です。

忘れてはならない事実をもう二つ

その1 ペース配分は指導者が行う！

一つ目は、子どものペースばかりを重視していたのでは力はいかないということです。

スポーツ選手が結果を出すために自分に負荷をかけた練習を繰り返すことは皆さんご存じのとおりです。

勉強も同じです。「子どものペースに合わせた指導を」という心地よさそうな表現を耳にします。しかし、子どものペースに合わせていたのではいつまで立っても結果など出ない、というのが現実です。

スポーツ選手がコーチと一緒に練習を繰り返すように、子どもたちもその子たちの力を見極め、ちょうどよい負荷をかけてくれる指導者と一緒に勉強することが必要です。そして一緒に頑張るからこそやる気もでるし、それが結果にも結びつくようになるのです！



その2 私立入試

これまで公立高校入試での調査書の取り扱いについて述べてきましたが、今年度の私立入試での調査書の取り扱いに変更はありません。

公立高校入試での割合が減ったからといって調査書の点数をないがしろにしては、私立入試の際に必要な内申点が確保できない。つまり専願受験制度（各高校によって調査書の基準点を設けており、その点数を満たすことで合格が保証される制度）を使えなくなります。

実力をつけながら内申点もキープする！どうすればよいのでしょうか？

簡単です。

両方やればいいのです。いや、やるしかないのです！

やはりここでも1・2年生からの勉強が重要になり、しかも今まで以上の勉強量が必要になるということが分かります。

いずれにしろ、「勉強なさい！」ということです。

受験は生徒たちを大きく成長させます。

いままでの受験指導を通してはっきりと断言できることの一つです。

一生懸命に立ち向かうからこそ、その結果いかんにかかわらずそこに残るのがあります。

勉強なさい！そして成長なさい！

一緒に頑張りましょう。

応援しています！



いくえい塾